

4月5日

麿村八丁

伊藤多恵子

山名	品谷山881m		山行名	麿村八丁	
ルート	佐々里峠—品谷山—麿村八丁—四郎五郎峠—ダンノ峠—佐々里峠				
山行日	2020.4.5		天候	曇り—晴れ	
参加者	リーダー： 伊藤多恵子 男性： 小川、西川洋、山下、森本 女性： 上杉、大林、河野 合計： 8名				
ルート概略図（省略）	コースタイム				
	地名		時：分	地名	
	松井山手	発	6:50	四郎五郎峠	着
	佐々里峠	発	9:24	同志社小屋	着
	品谷山・ダンノ峠分岐		10:00	ダンノ峠	着
	品谷山	着	10:35	品谷山・ダンノ峠分岐	発
		発	10:45	佐々里峠	着
	品谷峠分岐	着	11:12		発
	麿村八丁（昼食）	着	12:05	松井山手	着
		発	12:42		発
四五谷・四郎五郎峠分岐	着	13:50		着	
				発	
山行報告 参加者14名の確定後、車のピックアップ・アップ場所と時間の連絡など準備万端整ったところで、例会の実施に検討が求められた。新型コロナの感染拡大によるもので仕方がない。取りあえず「中止」と決めたものの異論も出て、結局個人山行での実施となった。 予報で寒いことは承知していたが、佐々里峠に到着すると小雪が舞っている。震えながらの出発。（ひとり言：4月末を希望していたのだけどなあ…ブツブツ）品谷山までは、一か所倒木に阻まれたぐらいで問題ない。そこから先は気持ちのいい尾根歩き。時々ブナの大木が出迎えてくれる。新緑の頃はどんなにかきれいだろう。品谷峠の標識は見落としやすいので注意。ベテランの参加者がそれぞれ注意喚起してくれる。おかげで無事に麿村八丁への下り道を見つける。スモモ谷は台風による倒木のため、何度となく渡渉を強いられる。「楽しい！」との声も。三角小屋が見えて、麿村八丁に到着。20年以上前に訪れた時には残っていた土蔵や神社などの建物は消え、敷地を取り囲む石組だけが集落跡を偲ばせる。こんな山深い奥地に、分教場まで持つ集落があったとは…。人々はどんな暮らしをしていたのだろうか。木を切り、獣を狩り、炭を焼いたのだろうか。人の営みのたくましさに打たれる。 帰路のコースは四郎五郎峠。小屋の守り人らしき人にアドバイスをもらって出発。取り付き地点を見逃さないよう、慎重に沢を歩く。刑部谷への分岐手前でバイカオウレンを発見。白い清楚な花が水の流れる岩壁に咲いている。分岐後も倒木のため、何度も渡渉。そのうち標識が見え、峠への細い道を上がって行く。杉林のあまり面白くない道だが、もう一つの刑部谷コー					

スが倒木のため難路となっているのでこちらを選択。峠を越して下ったところに同志社小屋が。この辺り一帯からは小さな流れに沿ってのんびり歩く気持ちのいいコースだ。新緑の頃に歩くと、黄緑に山桜の薄いピンクが混じって、桃源郷のような趣になる。この場所が好きで、私は何回も通ったのだ。やがてダンノ峠に至る。(Yさんにとってはダノン峠。)ここで、佐々里峠に戻る組と菅原バス停で待つ組(2名)に別れる。菅原組の方が早かったです。

実は、例会実施の準備でこのコースを調べ始めた時、倒木のためコースがわからず引き返し人、遭難しかかった人の報告などあって、「無理かも…」と思い始めていました。でも、励ましとアドバイスを下さったベテランの方々のおかげで実行できました。ありがとうございました。尾根歩き、渡渉の連続の谷歩き、峠越えなど変化の多い山歩きでした。今回、参加を見合わせた若手の皆さん、また、車の定員により参加できなかった方々、次の機会に是非チャレンジして下さい！

ヒヤリハット なし

廃村八丁 感想

上杉郁子

昭和初期まで人の営みがあったと言われる廃村八丁。いつかは行きたいと思っておりました。品谷山から渡渉を繰り返し約一時間半、廃村八丁に着きました。不思議な形のトタン張りの山小屋がありました。このあたりを見守っておられる様子。お盆のように平らな場所、川あり分校もあったとのこと。当時の生活に思いを膨らませて廃村八丁を後にしました。リーダーはじめ皆様お世話になりました。



山下隆

この2～3年は京北地区の山行に縁があり、芦生・小野村割岳・平安杉・西の鯖街道と自然林を楽しんできた。これらの地区に行く時には地図上には廃村八丁・品谷山が現われて気になる山域だった。その上、以前の廃村八丁例会での何方かの感想文に周辺のたたずまいの中っていると涙が止まらなかったと書いてあったことが記憶に残り、どんな山だろうと引っかかっていた。という思いから今回の伊藤さんの企画には早速申し込んだ。だんだんコロナ感染者が住まいの周辺に迫ってきていて陽性患者はすでに京田辺市で5人となり、市民春山登山も中止決定で、ヒョットすると今回の山行後はしばらく山にいけないのではないかと不安もよぎる。皆でマスク付けて車上の人となり、空いた京都市内をスイスイと通過した。

京北地区も2年前の19号台風で被害が激しかったので、先の山行でも倒木・崩落で悩まされたこともあり、今回も最近のヤマレコ情報をいつもよりしっかり読んでルートの事前調査をした。結果的にCLを選んだ最終ルートが一番安全だった。

佐々里峠についたら小雪が舞っていて身が縮み、もう一枚衣類を重ねて出発。雲は切れ切れなので心配する程もなく助かる。咲き始めたイワウチワも気持ち寒そうで下を向いていた。尾根では予想通り倒木が多く、足の短い者にとっては不利な障害物競争だった。コースの半分は沢沿いで渡渉の数が幾つあるかと数え始めたが、渡渉に神経を集中しているうちに、幾つ目だったか忘れてしまう。渡渉は30～40回はあったと思う。誰も水難事故に合わずにすんだ。魚影を見つけると皆でほっとしたりした。

廃村八丁での三角屋根のポツンと一軒屋には当番の方がお住まいでびっくりする。昭和の初めに豪雪で廃村に追い込まれ、苦勞した御先祖様の供養のために、この一帯の保全をしているのだろう。その方に、帰路のコースのアドバイスをいただき、優しい森の守り神に見えた。

渡渉卒業後の四郎五郎峠からダノン峠までのなだらかな一帯は小川あり、ブナの若木ありと芦生の自然林を彷彿させる雰囲気は今日のハイライトだった。今回は新緑には早すぎたので、5月の連休後とか秋の紅葉の時期(11月初旬)には又是非とも訪ねてみたいと思う。久しぶりにいろいろあった楽しい山行でした。CLやいつも運転してくださる西川さん、同行の方々に感謝です。

